

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0790400642		
法人名	メディカルケアサービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホームいわき平窪		
所在地	福島県いわき市平中平窪字横枕10-1		
自己評価作成日	2019/5/8	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do">http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	令和1年6月18日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居様、ご家族様が安心・安全、穏やかに過ごされるホーム作りを継続しており、地域住民の方々も気兼ねなく来訪できる様、心がけております。認知症介護に特化したサービス提供を目指すと共に、地域に根ざし開かれた風通しの良いホームになるべく、認知症介護を初めとした介護全般の相談窓口となれるよう、地域住民の方々や、行政・医療機関等と良好な関係を継続し、『愛の家』で良かったと言って頂けるホームを目標としています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は、利用者にとって何が一番喜ばしい事なのかを常に考え、職員の言葉の使い方や選び方にも注意を払い、事業所全体が心地良い、住み慣れた生活の場所になる様、気を配っている。 職員一人ひとりが、より良い介護を目指し、短期目標を決めながら、達成に向け、日々支援にあたっている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ理念・介護事業理念を基に事業所理念を作成し、玄関・事務所に掲示している。	事業所の現状にあわせて理念の見直しをしている。ミーティングや会議で理念を再確認し、利用者優先のケアが実践できるように職員の意識を高めている。利用者の時間を大切に考え、丁寧なケアを心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に加入し回覧板等での地域での様々な行事等に出向き、交流が出来るよう心掛けている。	事業所の催しに小学生が参加したり、ボランティアを受け入れたり、地域の方と積極的に交流している。来客には利用者がお茶をだし、いつでも気軽に足を運んでもらえるように、職員全員で温かく迎えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日頃の近隣への7散歩や買い物等を通して、認知症の診断があっても住み慣れた地域で過ごすことが出来るよう、地域住民に働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催し、運営推進会議で頂いたご意見やアドバイスをスタッフ全員が共有し、地域活動の中で認知症についての理解が深まるよう努めている。(老人会主催の100円喫茶参加等)	参加者全員に発言の機会をつくり、質問や要望を聞いて話し合っている。会議での発言をきっかけに服薬マニュアルを再確認するなど、利用者が安心して過ごせるような環境づくりにつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長寿介護課や包括支援センター窓口に出向き、情報収集に努めている。また、介護相談員さんの定期的な訪問や、イベント協力で交流を深めている。	市町村から情報をもらって、積極的に勉強会に参加している。包括支援センターの担当者に、利用者の在宅時の様子を聞いてケアに反映するなど、利用者の継続的な支援のために協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回、身体拘束に関する会議を開き、全職員が共有出来るように働きかけている。	身体拘束はせず、利用者の立場にたって考え、利用者が心地よく過ごせるようにしている。気になる場面があれば、その背景や改善案を話し合い、職員で共有している。利用者の行動を制止する言葉をつかわないように日頃から気を付けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待・不適切ケア」のチェックシートを定期的に記入し、会社で共有すると共に、研修の実施で、発生防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修予定に組み込み、理解を深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族や関係機関との話し合いをし、ご理解を頂けるよう説明・納得頂いた上でご契約を結んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関内にご意見箱を設置している。年に1回全ご家族様へアンケートをお配りし、ご意見を頂き運営に活かせる様にしている。またご家族様来訪時には、日々の生活の様子をお話し、ご意見をお聞きし、反映できるように努めている。	家族の訪問時、気軽に何でも話せる様な雰囲気作りに留意しながら日頃の様子を伝え、意見や要望を聞き取っている。畑の土作りのアドバイスを受けながら、夏野菜の手入れを皆楽しんで行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	福島エリアの事業所管理者が月に1回集まり、定期的に責任者会議を開いており、会社全体の情報を各事業所に持ち帰り、ユニット会議において全スタッフに周知、意見交換を行っている。	管理者は、職員と利用者との日頃の関わりの中での、気付きやアイデアをその都度聞き取り、活かしながら、働き易く、気持ち良く過ごせる環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格支援制度を導入し、各自のレベルに合わせたスキルアップ研修を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自のレベルに合わせたスキルアップ研修を実施していると共に、スタッフとのコミュニケーションやヒヤリングの中から一人ひとりのスキルや状況に合わせた育成や、年間研修を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会加入や外部研修への参加等で、積極的に交流を深め、意見交換し、相互の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ユニットリーダー、計画作成担当者がご本人様、ご家族様の満足のいくサービスを提供できる様アセスメントし、プランに反映し、ご要望に沿える様、スタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・申込時より話しやすい雰囲気を作ると共に、入所後は 面会時や話す機会を増やし、何でも話せるような環境を作るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	協力医療機関やご家族様、担当ケアマネジャー、ソーシャルワーカー等と話し合い、最善の支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフも入居者様と共に生活していると考え、穏やかな関係を築き業務を行っている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも面会・外出・外泊ができる様、支援している。またご家族様との接点を深め、共に支えられる関係作り力を入れている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様の馴染みの人や場所を大切に、「会える」「行ける」環境をつくり、『その人らしさ』を大切にご支援できる様努めている。地区老人会主催の100円喫茶や日頃の散歩や買い物等から、住み慣れた地域で馴染みの人との会話や、建物、風景を見て頂いている。	職員と一緒に墓参りに行ったり、通い慣れた美容室でカットしませんか、と声掛けする等、これまでの関係が途切れないよう支援している。昔住んでいた地域へのドライブは、楽しみの一つになっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スムーズな人間関係を保つことが出来るよう、スタッフ一人ひとりが意識し、懸け橋となれるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退去に関わらず、ホームで知り合えた方々すべての人との関係性を継続できることを意識した関係作りを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人お一人の「個性」を大切に尊重し、その人の思いや考えを考慮している。	日々の関わり合いの中で、業務を優先せずに、利用者との話の時間を大切にしながら、意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や素振りから思いを推し量り、その人らしく暮らし続けられる様、取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご自宅で使用していた物や、家具を居室に置いて頂いたり、生活習慣が継続してホームでも継続して行ってもらえるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人お一人のお話を伺うと共に、連絡帳、申し送りノートで状態の把握に努め、その方の時間の過ごし方、状態、有する能力を見極め対応している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回または、状態の変化が生じた時は随時モニタリング・担当者会議を開催し、現状にあった介護計画書の作成に努めている。	丁寧な見守りの中での気付きや変化を全職員で話し合い、意見交換をしながら、現況に即した計画作りを行っている。家族の要望や状態の変化に応じ、臨機応変に見直し、適切なケアに繋いでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に沿って時系列に記録し、スタッフ間で情報の共有が出来るようにしている。また、サービス計画実施状況の総括及び評価を各スタッフに記入してもらう事で見直しに活かすことが出来ている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様と話し合い、個々のニーズに合わせた支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	様々な形で地域活動に参加出来るよう心掛け、日常的な散歩や買い物等の外出を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関より、往診(2回/月)をしてもらうことで、ホームドクターとしての役割を担って頂き、入居者様の目線に立った関わりをして頂いています。ご本人様、ご家族様の希望で、違う医療機関への受診もなされています。	基本的に利用者や家族の希望に沿って受診している。専門医には家族が付き添っているが、必要な場合は職員も付き添い、事業所での記録を持参したり、利用者の様子を話したりして受診の支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関と医療連携体制を整え、健康チェック(1回/週:木曜日)を継続実施している。また24時間オンコール体制を整え必要時に連絡し、指示を受けられる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携が出来ている事で、状況にあった支援を提供でき、病院関係者との情報交換・相談を密に行うことで早期退院が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より重度化の指針、終末期の在り方についてご家族様と密に話し合い受け入れをしている。	食事の飲み込みなどの小さな変化にも気を付け、家族に状況を伝えてその都度話し合いをしている。こまめに連絡をとって利用者や家族の意向を把握しており、意向に沿えるように事業所ができることを考えて柔軟な対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当てや初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフに普通救命救急講習を受講して頂き(未受講者へは動画にて研修)定期的に急変時・事故発生時の研修を開催している。また慌てず、焦らず報告できる様、電話の近くにマニュアルの掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回/年の避難訓練を実施し、その都度課題を再確認して様々な視点から対策を立て、安全管理に努めている。災害時の緊急備品を整備している。	夜間の想定で訓練を行ったり、二階からの避難経路を変えてみたり、どんなケースにも対応できるように準備している。避難訓練の際は、区長や消防団に声をかけ、地域との協力体制を築けるよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	良好な関係が構築の為、重要項目とし年間研修計画に入れ研修を実施している。	利用者の行動は否定せず、受け入れることを基本としている。トイレの声かけは耳もとで行い、職員間の会話も内容に応じて小さな声にするなど、利用者が不快な思いをしないように配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、ご本人様の希望や要望、自己選定・決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの方針として、入居者様中心の時間の過ごし方を考慮し、対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お一人お一人の個性を大切に身だしなみが出来るように心掛けた支援を実践しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃より食べたい物、飲みたい物を確認し、出来るだけ提供できるようにしている。また、入居者様が家事活動に参加し一緒に楽しめる様にしている。	利用者の食べたい気持ちを大切にしており、臨機応変にメニューにとりいれている。かき氷やホットプレートを利用したどらやきなど、季節にあわせておやつ作りを楽しんでいる。利用者が味見や盛り付けなどを行い、食事作りに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が栄養バランス、季節に応じた献立を作成し、ご提供している。また、お一人お一人の嗜好や意見をお聞きし、定期的に好きな物を提供できるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	新たに訪問歯科診療を導入し、専門的な知識やアドバイスを受け、対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレを基本とした排泄を支援しています。常時、排泄チェック表に記載し状況を把握、必要に応じて看護師・医師のアドバイスを頂いている。	チェック表を基に、全職員が一人ひとりのサインを把握し、生活のリズムに合わせた、さり気ない声掛け、誘導を行い、トイレで排泄出来る様になっている。入居時には夜間、おむつを使用していたが、布パンツへと変わった利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人お一人のパターンを把握し、水分補給や繊維食品の摂取や、運動等を導入しながら、出来る限りの自然排便を目標としている。必要に応じて看護師・医師のアドバイスや、整腸剤の処方に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤を選んで頂いたり、妻が夫の背中を流す等、楽しみながら入浴が出来るようご支援している。	入浴剤で気分を変えたり、柚湯で季節を感じてもらったり等、寛いで入浴を楽しめる様、利用者の希望に合わせた支援を行っている。身体が不自由な場合は、職員二人が対応し、安心して湯舟に浸かれるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠が出来るよう、お声掛けや見守りを行い、安心して休んで頂けるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問薬剤管理指導を導入しており、薬のセッティングから、アドバイス等を受けられる事で、適切な服薬介助や安全な管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動や、レクリエーション等で役割や生きがいを持ってお過ごししているよう支援しています。特に家事活動や園芸を楽しむ事で気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に外出が出来るよう、買い物や、園芸活動ドライブなどを企画し地域住民の方や社会交流を図れるようご支援しています。	日常的に事業所周りを散歩したり、庭で花の手入れやお茶を楽しむ等、いつでも好きな時に戸外に出かけ、気分転換を図れる様になっている。職員と一緒にスーパーに出かけ、色々な食材選びを楽しみにしている利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様よりお小遣いとして金銭をお預かりし、買い物等で金銭のやり取りが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様のご希望に沿って、ホームからの電話連絡、個人携帯電話による連絡等ができる様になっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂けるよう、入居者様と共に季節ごとの装飾等を作成したり、天気の良い日には窓を開けたりし、視覚や聴覚、臭覚で感じて頂けるようにしています。また、入居者様の意見も取り入れ、テーブルやソファの配置を行っています。	清掃が行き届き、壁には、塗り絵やきり絵等、利用者の作品が飾られ清潔に保たれている。テレビを見たり、計算ドリルやパズルをしたり、職員と一緒に洗濯物を畳んだり、料理の下ごしらえや味見をする等、思い思いに日中を過ごす場所になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が気軽に集まり、安心できる空間を作り、自由にお過ごし頂けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。	ご本人様がホッできる居心地の良い空間にする為、入居前からご家族様ともお話し、馴染みの品や家具等の持ち込みを提案している。	各居室のドアには、利用者の写真が飾られ、間違い予防に繋がっている。身体の状態によって、ベットの足元に畳やマットを敷き、転倒による怪我の防止を図る等、一人ひとりが安心して過ごせる様な部屋作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、適切な場所に手すりが設置されています。場所が分かりやすい様に工夫したり、安全かつ自立支援に配慮しています。		